

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	在宅漢方 3 ～漢方により食べられない状態を改善する～
演者名	山口竜司
所属	山口診療所

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究 4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究 8. 質的研究 9. その他研究	NO.
		1

目的

漢方により食べられない状態を改善する。在宅患者の最後の希望は、「食べたい」、家族も「食べさせたい」という答えが多い。漢方 2 剤併用による「食べる」ことの希望実現を検討する。

方法

男 1 人、女 2 人の計 3 名 (平均年齢 90 歳) に対して、六君子湯 7.5g+十全大補湯 7.5g 分 3 を投与。食欲と体重・総タンパク質の変化を調べた。

(症例 1) 89 歳女性 慢性心不全、貧血、慢性閉塞性動脈硬化症、高血圧、アルツハイマー型認知症。麻痺性イレウスによる入院でせん妄が出たために退院。その後食事が減少。

(症例 2) 88 歳女性 アルツハイマー型認知症。誤嚥性肺炎をきっかけに徐々に食事が減少。

(症例 3) 93 歳男性 慢性心不全、貧血。慢性心不全と重度の貧血のため食量減少し、全身状態が悪化して入院。せん妄が出たために退院。その後再び食事が減少。

いずれの症例も食欲が改善し食量が増え、体重・総タンパク質が増加、全身状態の改善につながった。

結果

考察

胃瘻や中心静脈栄養を本人・家族が希望されず、西洋薬を用いても食欲が思うように上がらず苦慮するケースに、六君子湯と十全大補湯の 2 剤併用を行い、良好な結果が得られた。六君子湯は食思増大の効果に優れており、機能性ディスペプシアにも有効である。また効果発現が早いため、在宅医療のようなケースには有用な漢方といえる。十全大補湯は、低下した消化機能の回復による栄養吸収促進、末梢・微小循環の改善による組織の栄養状態の改善、組織の治癒機転の促進作用、さらに免疫調整機能が期待できる。細部の効果は異なるが、同じ方向性を持つ 2 剤を併用することにより、状態改善の効果増大を図ることができたと考えている。食べられない状態の改善のためには、漢方の役割は大きいと考える。